



えが お

都立城東特別支援学校長
秋本 友美

自分を守るそして社会へ ～防災の力～

校長 秋本 友美

令和 7 年も残すところ、20 日余りとなりました。授業日では 11 日。振り返りや、新年への期待など、思いを巡らせる季節でもありますね。

少し振り返ります。11 月は、様々な地域で「防災」に関する取組が行われました。防災と言うと「9 月」（関東大震災）のイメージが強いですが、昨今の気象状況では屋外での活動は「危険」と判断して、この時期にしたとも伺いました。

東京都は、従前までの「宿泊防災訓練」から、広義での「地域総合防災訓練・防災学習」を教育課程に位置付けるよう指導しています。「子ども」「教職員」「保護者」「地域」まさに「4 者の調和・協働」です。でも調和・協働の前に、それぞれが「自助」の備えや力を付けようとしているのか、が肝要です。その上で、「お互い（の置かれている状況）を知る」こと。「共助」につながるからです。そのため、11 月 22 日（日）木場公園で行われた「江東区総合防災訓練」、亀出神社で行われた「地域総合防災訓練」に参加しました。「城東特別支援学校をもっと知ってもらおう」ことができ、「地域総合防災訓練」の次年度の姿を勘案する機会になりました。



「防サイくん」

令和 8 年度は、上述を踏まえた訓練・学習ができるよう、4 者それぞれのねらいを明確にした訓練や学習で備えを図ります。今年度の取組状況の具体は、裏面をご覧ください。

テーマは「いつでも、どこでも、自分の身は自分で守ること【自助】【自衛】」。学校で災害にあうとは限りません。様々な想定を取り入れた、ねらいや内容の一例を、御紹介します。

- ①「保護者」・・・【新規】全校児童・生徒の引き取り訓練を行います。
⇒御自宅から、学校へどのような手段で迎えに行くのか、どれだけ時間を要するのか、
- ②「子ども」・・・「命を守るための学習・訓練」を通し、「自分で身を守る」力を付けます。
- ③「教職員」・・・「城東の学び舎で学ぶ子供たちの安全確保及び引き渡し訓練」「都立学校に課せられている帰宅困難者ステーションの開設」「江東区と締結している福祉避難所の運営」
- ④「地域」・・・近隣の小・中学校、町会、行政、消防・警察等、各々「自衛」を理解し、「共助」の道筋を探る。など、「地域総合」という名の内容を整理していきます。

「東日本大震災」は 14 時 46 分に発生しました。当時、私は大きな街道沿いに隣接している特別支援学校に勤務しており、1 便で出発したスクールバスが、帰校し始めた頃でした。後 1 時間遅れて発災していたら・・・スクールバスは運行中で、多く一人通学の生徒たちも帰路の途中でした。「〇〇だったら・・・」と想定外を想定内しておくことが「自衛」です。

そして、最近では令和 6 年元旦に発生した「能登半島地震」。極寒下、避難生活を送る方々の姿は、忘れられない光景です。（実家に戻り）居住地ではないところで被災した方が多かった・・・想定にキリがありませんが、私たちはこのことを「教訓」にする力があります。

折しも 12 月 5 日「首都直下地震」に関する新たな被害想定素案概要が報道されました。ぜひ御家族が集う長期休業期間に「我が家の防災」を話題にしていだけますと幸いです。

本年も御理解・御協力を頂き、ありがとうございました。よいお年をお迎えください。

教職員向け：総合防災訓練（7月23日）

主任教諭 中澤 耕平（生活指導部防災安全担当）

この日は、「児童・生徒の引き渡し訓練」、「避難所設営訓練」及び「防災講演会」を実施しました。

○避難所設営訓練

想定：大規模災害発生時、“すぐに下校することが難しい”、“ライフラインが不通になる”。

児童・生徒の安全確保を最優先に、帰宅まで学校で生活を送るために、避難生活に必要な発電機やろ過機などの資器材や災害用非常食を実際に準備したり、活用したりする訓練を行いました。毎年訓練を積み重ねることで、教職員間で準備や運営の仕方が共有されたり、より円滑になっていきます。同じ学び舎で過ごす「大塚ろう学校城東分教室の先生方」もこの訓練に参加しています。

○防災講演会

江東区の危機管理室職員を講師としてお招きしました。大島中央町会の皆様の参加も得て、地域の特徴や災害に対する備えを伺いました。江東区は、食料や物資など備蓄品の充実・拡充をすすめていますが、区民全員分はありません。私たち一人一人が、人任せにするのではなく、災害への意識を高め備えることが大切であると感じました。



地域と連携した総合防災訓練・防災教育推進委員会（9月19日）

主任教諭 田中 紗代（生活指導部主任）

○総合防災訓練

午前は①全校対象の避難訓練、②中学部1・3年対象に起震車体験を実施しました。起震車体験には大島中央町会の方々にも御参加いただきました。午後は中学部1年を対象にランタン（防災グッズ）作り、担架訓練、暗闇歩行訓練、災害時備蓄食料の食事体験、引き渡し訓練を行いました。その様子は大島中央町会の方1名、PTAの方2名、防災教育推進委員の方にも御参観いただきました。地域の方やPTAと連携した避難訓練が実施できました。

○防災教育推進委員会

6月に引き続き、2回目の今回も、全日を通し訓練を参観していただきました。「発災時は公的支援が入るまでに時間がかかることが予想される。中学生であれば高齢者などを支援する立場を担えるので担架訓練は共助になる。また、暗闇歩行訓練などもとても良い体験。」と助言を得ました。

そして、「学校には備えもあり、教員も寄り添うことができるが、実際に発災した場合、**子供たちに安心感を与えられるのは保護者の方々**。今後とも保護者に協力を呼び掛け、共に考えて備えていく必要がある。」と御助言もいただきました。

有事の際、大人も子供も自分たちの命を守るのは自分たちです。

「自分ごと」として、事前に経験しておくことは命を守ることにもつながります。

今回の総合防災訓練で城東特別支援学校の「共助」「自助」を学ぶことができました。学校からの防災に関する情報発信は、X（旧 Twitter）でも積極的に活用していく予定です。



【えがお後記】 防災は「特別」ではなく、日常の延長にある「命を守る準備」です。学校で様々な避難訓練等を行っておりますが、ご家庭での備えはいかがでしょうか。防災は「自分ごと」。経験を積み重ねることで、命を守る力になります。これからも学校・家庭・地域・子供が一緒に進めていけるよう情報発信を続けていきます。生活指導部担当主幹 主幹教諭 陸川 香都